



# ハットクラブだより

No. 29 2010年1月31日発行

## ハット市民グループが来訪

昨年10月にハット市から6人の市民が来訪しました。当クラブが受け入れの窓口となり、行政の協力を得て、ホストファミリーの斡旋、歓迎パーティの開催、観光の案内、副市長や議員との面談の予約、などを行いました。

一行の中には、1995年当時のハット市長で国際協力都市提携に故橋本市長と共に調印したグレン・エバンズさん夫妻、ハット・箕面友好ハウスの運営委員会議長ローズマリ・マクレンアンさん、友好ハウスの理事でウェリントン市議会議員ヘイリ・ウェインさんが含まれていました。特にグレン・エバンズさんは近年の両市交流の後退を憂慮され、ご自分の体験を熱心に市長・副市長・議員有志に話しておられました(エバンズさん、ありがとう)。



▲ 左よりエバンズ元ハット市市長、ローズマリ・マクレンアンさん、エバンズ夫人、ヘイリ・ウェインさん。返礼の歌を聴かせていただいた。



▲ エバンズさんは両市の交流の重要性について、熱く語られました。

今回も有意義で楽しい市民交流の機会となりましたが、特に歓迎パーティには70名近くが「らいとぴあ21」3階ホールに集まりました。佐藤会長、エバンズさん、倉田市長、二石市議会議長、などの関係者の挨拶、立食での懇談、会員の安房悦子さんのお琴演奏、ハット市側の返礼の歌、と続き最後は箕面音頭を皆で踊りました。

参加者の中にはかつてハット市を訪問したことのある市職員や中学生時代にハット市に派遣され今は社会人となっている人たちもおられ、これまでの交流の歴史を振り返り、また未来を考えるよい機会ともなりました。

ホストファミリーを引き受けていただいた会員や運営委員を始めご協力いただいた皆様お疲れ様でした。



▲ 会場には多くの方が参加しました。

## NZワインテイasting開催

第五回目を迎えた恒例のワインテイasting。今回は11月の第四日曜日に市民活動センターで開催されました。参加者は当初の予想を上回って、39名の大人数となりました。

講師には輸入会社(株)服部の社長のお取り計らいで、リッツ・カールトンホテルのソムリエをお迎出来、華やかなイベントとなりました。

ワインはニュージーランド産の中から、厳選された赤と白のワインがそれぞれ2種類ずつ用意され、ソムリエの栗本さんの分かりやすい説明をはさんで、4種類の素晴らしい味と香りを楽しむことが出来ました。当日回収したアンケートの結果も「楽しかった」が大多数を占めておりました。

次回はさらに一層豪華なイベントにしたいものです。

(川島一彦)



▲ ワインを手に説明するソムリエの栗本氏



## お茶会 in 西江寺



会員の前田氏が、毎年お茶会を開いて下さっていましたが、今年は趣向を変え、西江寺にでかけました。

西江寺は、毎年10月第一土・日曜日に蟲供養のお茶会を開くことで、知られています。外国人2名を含む14名が参加しました。

一人五百円の参加費は御供養に充てました。蟲供養は農耕の為に犠牲になった、蟲の霊を供養する為のものです。受付の横には、蟲の大好物の野菜(サツマイモ、カボチャ、トウモロコシ)などが山と積まれています。

お茶室は2箇所には設けられています。庭を見渡せるお座敷には緋毛氈が敷いてあり、投げ入れと立花の活花が展示されていて順番を待つ間も退屈しません。本格的なお茶室には飛石を渡って入りました。庭も苔むし純日本的。

駅から近いのに都会の喧騒を逃れ、寛ぎのひと時を楽しみました。(橋本 保子)

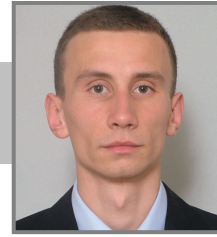
## クリスマスパーティー開かれる

12月恒例のクリスマス会は、今回も船場東のリー・ツァン・ティンで開催しましたところ、29名の参加をいただきました。また、英会話サロンで大変お世話になっています講師の皆さんが6人、それに会員のご友人だけではなく、箕面市からハット市へ派遣された中学生のOBの方も初めて参加頂き、ハットクラブならではの国際色豊かなパーティになりました。

恒例のN.Z.クイズは、今回は講師の方の母国や地元箕面の話題も織り込み、参加者の皆さんは景品を目指して、楽しみながら世界の話題に挑戦頂きました。館さんにはミュージックベルの演奏でお世話になり、有り難うございました。今年参加出来なかった方も、ぜひ来年はご参加下さい。(小谷 直樹)



第9回  
シリーズ「わたしのにっぽん」 “My Japan” Matev Miroslav  
さん



Coming to Japan almost four years ago was a big step in my life. My first impressions of Japan were so many and so colorful that I still remember the amazement mixed with confusion I felt at that time. What worried me most at that time was the fact that I did not speak any Japanese. So, I started studying Japanese language in Tokyo University of Foreign Studies together with 70 students from 40 different nationalities. The educational course was quite challenging as we had to learn enough Japanese to be able to take regular classes in a Japanese university for only one year. I had to get used to live in this small international community (our dormitory) with representatives of so many countries. During the first month it seemed we all experienced cultural shock. But later, united around coping with the same problems, we became very good friends with the students from the dormitory. After six months I learned enough Japanese to lead a simple conversation so it became easier to get to know the Japanese students as well. Eventually I made some Japanese friends and having fun together helped me improve my Japanese much faster and in the same time to understand more profoundly the Japanese culture. I feel that living one year in such an environment greatly enriched my personality. I learned to appreciate and enjoy the cultural diversity.

Two years ago I came to Osaka. Presently, I am a student in the Pharmaceutical Department of Osaka University. When I came to Osaka, for the first time in my life I felt that I am completely on my own. But now I feel very comfortable with my life here in Osaka. I made a lot of friends (including my friends from the Hutt Club who are always very kind) that I can count on. After I came to Japan I realized that just being optimistic is sometimes enough for solving many problems. When I am in trouble, or just in a bad mood I try to think positively and I tell myself that every cloud has a silver lining. That is my “problem-free philosophy”.

4年前の来日は人生の大決断だった。日本の第一印象は多様で色彩に富んだもので、その時感じた困惑と驚きの感情を今でも思い出す。困ったのは日本語が全く話せなかったことで、東京外大で日本語の勉強を始めた。そこでは40カ国の国籍をもつ70人の学生と一緒に、1年で日本の大学の授業に出られる日本語能力を習得しなければならなかった。各国の代表者のような人達との寮生活に最初は戸惑ったが、共通の問題に取り組むうちに良い友人になることができた。半年で私の日本語は日本人の学生と知り合いになれるほどになっていた。日本人の友人との楽しい時間がさらに私の日本語を上達させ、日本文化を知る助けとなり、私の人格をも豊かにしてくれた。文化の多様性の価値を知りそれを楽しむことができるようになった。

2年前阪大薬学部の学生になった時、私は生まれて初めて全てを自分でしなければならなかった。今では生活は快適で、ハットクラブの友人たちを含めて頼れる友人をたくさん作った。日本で私は楽観が問題を解決すると思うようになった。「曇りでも雲の上は太陽が輝く。」これが私の「何があるても大丈夫哲学」である。  
(編者意識)



## ハット・ニュージーランド通信

What is new in Hutt city and New Zealand?



### ●ハット市を見下ろす山々が名所に登録される

Several of the Hutt Valley's best hill summits have been included in New Zealand's first "Peak Bagging" list. They include Colonial Knob (between Normandale and Porirua). The idea was inspired by people whose hobby overseas is walking or climbing to the summits of hills and mountains. It is called Peak Bagging.

NZ最初の「地域の名山ガイド」でハット市近郊の山々がいくつかリストアップされた。このガイドはあまり高くない国内各地域の名山に登ろうという海外でのハイキング動向を反映して編纂されたものである。

### ●日照を遮る街路樹が大問題

Tall trees between streets and footpaths are making life miserable for some home owners in Lower Hutt. In the winter the trees, owned by the council, stop sun from reaching their cold homes. The problem is especially bad in Eastbourne where many street trees are native pohutukawas. They are bushy and evergreen.

ポフツカワの木はNZの代表的な自生種だが、冬はその街路樹が日光を遮って寒いと付近の住宅から苦情が出ている。

### ●ノーマンデル地区のサンタクロース

Normandale's Christmas morning Santa Parade turned 25 on December 25. Inspired by a parade in the Palmerston North suburb Rosemary McLennan moved to as a teenager, she brought the idea to Normandale and it began in 1984. Santa rides in a red sleigh, which is owned by the Upper Hutt newspaper Rosemary works for and is stored in her garage. Santa delivers presents to families by prior arrangement and his helpers on the sleigh throw sweets to people standing at their gates as he drives past.

ハット箕面友好ハウスが立地する丘陵地はハット市ノーマンデル地区と呼ばれるが、毎年クリスマスになるとサンタクロースが子供達にプレゼントを配る。今年で25年となるが、実はこのアイディアはこの欄の寄稿者であるローズマリ・マクレナンが始めたものである  
(寄稿:ローズマリ・マクレナン 2010年1月17日)

## ハット市から中学生グループが来訪

昨年11月、ハット市のハット・バレー中学校から12人の生徒が5泊6日の日程で来訪し、市の小学校や中学校を訪問して交流を深めました。これまで箕面市からハット市には毎年中学生が派遣されてきましたが、ハット市から中学生が来訪したのは初めてです。行政が受け入れ窓口となり、ホストファミリーを市民から公募しました。

当クラブ代表も歓迎会に招待され、引率の先生と話しましたが、この年代の子供達にとって異文化交流がいかに大切かNZでも広く認識されているとのことでした。交流の様子はマス・メディアにもとりあげられ、「もみじだより」12月号の表紙を飾りました。

## NPOフェスタ2009に参加しました

11月28・29日に開催された、NPOフェスタ2009に当クラブも参加しました。NPOフェスタは市民活動フォーラムみのおが主催する、市民活動団体がつくるお祭りです。私たち以外にも箕面市の市民団体25団体が参加し、展示ブースでそれぞれの活動の内容や魅力をPRします。会場となった箕面マーケットパーク・ヴィソラには活動に興味のある市民が訪れ、それぞれの団体の話に耳を傾けていました。ハットクラブは異文化交流の大切さや楽しさを呼びかけました。多くの方が我々の活動に興味を持ち、参加のきっかけになればと思います。



### ■クラブからのお知らせ

### ◆会員のみなさんの投稿を歓迎！！

クラブでは会員のみなさんの声をより反映した会報作りを目指しています。次号(2010年6月号)からは投稿を掲載する予定です。例えば・・・

- ・ニュージーランド旅行の思い出や写真
- ・仕事などにおける異文化交流の体験談
- ・ハットクラブに対するご意見やご感想・・・などなどテーマは自由です。

みなさんの貴重な体験や思い出を、みんなで共有しませんか？奮ってご応募ください。

原稿の送り先は、編集委員の有原か佐藤までお願いします。

### 《編集後記》

今号の「わたしのっぽん」(P3)はミロ君です。文中にあるとおり、日本語も堪能であり、私宛の連絡のメールも正しくて礼儀正しい日本語で返信が来るほどなのです。しかも漢字も使ってますよ！彼が私の和訳を読んで「この漢字間違ってますよ？」なんて指摘されたらどうでしょう・・・(汗)。まあ、彼は好青年ですのでそんなことはないと思いますが、それにしても講師の皆さんの学習に対する姿勢にはいつも感心させられます。私もそのくらいエイゴを頑張らなくてはいけないなあ。  
(H. A.)